



県内のこども食堂、1年半で倍増

「わかつく」紙面ではこれまでも何回か、和歌山県内のこども食堂に関する記事をご紹介します。前回本稿で取り上げたのは2024年9月20日付の第346号で、この時のこども食堂の数は全県で77でした。そこから1年半が経過し、今年2月末現在で和歌山県が把握しているこども食堂の数は2倍の154か所になり、2024年から2025年にかけての1年間の増加率は全国トップの81.7%となりました。最新事情を探りました。

和歌山県内のこども食堂数

	24年 8月末	26年 2月末 (参考) 小学校数
和歌山市	25 ▶ 48	53
海南市	5 ▶ 9	12
橋本市	11 ▶ 14	15
有田市	2 ▶ 4	7
御坊市	3 ▶ 5	6
田辺市	5 ▶ 11	26
新宮市	5 ▶ 11	5
紀の川市	4 ▶ 9	17
岩出市	3 ▶ 9	6
紀美野町	1 ▶ 1	3
かつらぎ町	1 ▶ 2	5
九度山町	0 ▶ 0	3
高野町	0 ▶ 0	2
湯浅町	3 ▶ 6	5
広川町	0 ▶ 3	5
有田川町	1 ▶ 6	12
美浜町	1 ▶ 1	2
日高町	0 ▶ 0	2
由良町	1 ▶ 1	1
印南町	0 ▶ 0	4
みなべ町	1 ▶ 1	5
日高川町	0 ▶ 1	4
白浜町	2 ▶ 2	9
上富田町	1 ▶ 4	5
すさみ町	1 ▶ 2	1
那智勝浦町	0 ▶ 0	6
太地町	0 ▶ 2	1
古座川町	0 ▶ 1	3
北山村	0 ▶ 0	1
串本町	1 ▶ 1	9
全県合計	77 ▶ 154	235

こども食堂の運営母体

	24年 8月末	26年 2月末
NPO法人	10 ▶ 16	
一般社団法人	6 ▶ 15	
任意団体・個人等	48 ▶ 95	
社会福祉法人	5 ▶ 12	
企業等	2 ▶ 8	
不明	6 ▶ 8	

こども食堂の開催頻度

随時実施	8
月に複数回	7
月に2回	17
月に1回	103
年数回	4
不定期	6
未定・休止中	8

こども食堂の対象者

こどもと大人	138
こどものみ	6
不明・休止中	10

▼こども食堂の数、運営母体、開催頻度、対象者は和歌山県庁こども未来課がとりまとめて公開している資料より集計。箇所数には現在休止中を含みます。また、資料に掲載されていないこども食堂もあるとみられます。
こども食堂の運営母体は編集部が独自に分類しています。「不明」は運営元情報が非公開。開催頻度と対象者は資料に記載されている情報を独自に集計したもので現在とは異なることがあります。
▼小学校数は和歌山県教育委員会「教育便覧（令和7年度）」を参考に、国公立・私立小学校の数を合算しています（分校5つ、休校9つを含みます）。

全国トップの伸び

和歌山県内のこども食堂の数は今年2月末現在で154か所。認定NPO法人全国こども食堂支援センター「むすびえ」の調査では、2024年から1年間の和歌山県内のこども食堂数の増加率が81.7%と、2位の栃木県37.5%増、3位の岡山県33.9%増をはるかに上回る極めて高い伸び率を記録しました。

様々な運営形態

今回は、こども食堂の運営についてもみていきます。運営母体は「任意団体・個人」が圧倒的に多く、気の合う地域の仲間が集まる

この1年半の数の変化を左の表にまとめました。ほとんどの自治体でこども食堂の数が増えています。また広川町、日高川町、太地町、古座川町で新たに開設されています。県教育委員会のまとめによると、県内の小

学校の数が235となっていることから、単純計算で和歌山県内の約3分の2の小学校区にこども食堂がある計算となります。235校には休校中の学校を含むことから、これを除くと小学校区に占めるこども食堂数は約7割となります。

開催頻度について集計すると、月に1回の開催が最も多くなっています。多くのこども食堂は特定の拠点をもち、地域の公民館やコミュニティセンターなど大量の調理ができる施設を借りて運営しているため、またボランティアでの運営のため、月1回の開催が最も多くなっています。多くのこども食堂は特定の拠点をもち、地域の公民館やコミュニティセンターなど大量の調理ができる施設を借りて運営しているため、またボランティアでの運営のため、月1回の開催が最も多くなっています。

運営するということ形態が多いことがうかがえます。一方で、日頃は高齢者や障害のある方の支援に取り組む社会福祉法人の参画が急増しているほか、企業や店舗による取り組みも増加しています。

しかし、運営スタッフの人手、開催場所の大きさ、他の事業との兼ね合いなど様々な事情で、利用を子どものみに制限しているところ、会員制としているところ、事前予約のみとしているところなどもみられます。

こども食堂はみんな食堂、だけど

県庁の資料から集計すると、対象を子どもに限定していると思われるこども食堂が少なくとも6か所あります。またSNSなどで事前予約が必要など、多人数あります。利用する際には事前の情報収集が欠かせません。

こども食堂は多くがボランティアにより運営されています。したがって、こ最近の食料費、特に米の価格高騰が運営に大きな影響が出ているといえます。なかには農林水産省の政府備蓄米など食料の提供を受けているところ、各種助成事業の活用をしているところもありますが、このような事業を活用するには様々な事務が必要

こうした書類まわりの実務が苦手という運営団体も少なくなく、こども食堂の運営は思ったよりたいへんという声も聞かれます。わかやまNPOセンターでは、むすびえや和歌山県社会福祉協議会などと連携して運営基盤強化に向けた取り組みを実施しています。こども食堂を運営されているみなさんぜひご利用ください。詳しくは左のQRコードから。（志場久起）



和歌山県こども食堂
応援ネットワーク

「私らしい」と「仕事」を両立する未来へ。 わかやま発、新キャリア革命。

「個人のモヤモヤ」を、和歌山を支える力に。
——「いきなり起業」じゃなくていい。一歩ずつ、
私らしく自信と専門性を磨く「スモールステップ」

前回、和歌山には「ちょっと先を歩く身近なロールモデル」が必要だとお伝えしました。では、どうすればそのモデルになれるのでしょうか？
子育て中の女性が「何か始めたい」と思ったとき、ブレーキをかけるのは実はスキル不足ではありません。母、妻、一人の女性...いくつもの役割に引っ張られて身動きが取れなくなる葛藤や、「私なんかにはできる？」という自信のなさ、そして社会からの孤立感。これは決して個人のやる気の問題ではなく、社会の仕組みの課題でもあります。

この目に見えない壁にぶつかる女性たち一人ひとりに寄り添い、伴走してきたからこそ見えてきた形。それが、「ホッピングママ講師®」の成長の段階です。

- 第1ステップ：心強い味方（繋がり）を増やす**
まずはコミュニティに参加し、仲間と繋がります。この「繋がり」こそが人生を豊かにする一番の資産。孤独を解消することがすべての土台です。
- 第2ステップ：「できた！」の積み重ねで自信を取り戻す**
ママチャレンジ塾でビジネスの基礎やビジネスマナー、セルフブランディングを学び、自分のスキルを仕事に変え「講師」としてアウトプット。講師デビューの場は、身近な子育て広場から企業での講座まで様々。小さな成功体験を重ね

和歌山市を拠点に、「母親たちの多様性を認め合い「自分らしく生き生きと」社会参画できる地域づくり」をめざすNPO法人ホッピング。活動の現場から「いま」をお届けします。

- ことで、自信をつけていきます。
- 第3ステップ：立ち位置を変えて、視座を高める**
プレイヤーとして活動するだけでなく、ママ講師が交流会の運営に携わるなど、応援される側から「応援する側」へ。社会を見る目がガラリと変わります。
- 第4ステップ：次の誰かの背中を押す**
最終的には、自らが「ママ講師トレーナー」として塾の講師を務めるなど、新しく一歩を踏み出す誰かを育てる「身近なロールモデル」へと回ります。



交流会で盛り上がる女性たち

女性たちが自分の時間と収入をコントロールしながら、社会と繋がっていくことは、立派な経済活動です。個人のモヤモヤを、地域を支える確かな力に変えていく。そんな血の通ったインフラを、これからも和歌山に広げていきたいと考えています。（貫名 茜）
※ 次回は6月中旬掲載予定です

NPO 法人ホッピング
〒640-8020
和歌山市北桶屋町7本町プラント 2F (本町公園内)
<https://hoppingmama.com/>

和歌山県 NPO サポートセンターからのお知らせ

2025年11月から12月にかけて、和歌山県こども食堂応援ネットワーク、認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ、和歌山県NPOサポートセンターの三者で3回シリーズで開催しました『こども食堂開設支援講座』の動画を配信しております。
第1回・第2回については、こども食堂以外の小さなNPOのみならずにも参考になるところがあるかと思えます。こちらからご覧ください。

- 【第1回】運営資金の作り方
- 【第2回】助成金・補助金の申請書類のコツ
- 【第3回】やってみよう！ここから始めるこども食堂



また、2024年度に開催した講座の資料には、こども食堂だけではなく様々な分野のNPO・ボランティア団体にも役立つ様々なITツールとして、
▼ホームページが作成できる「Google サイト」
▼希望する物品の寄付を集めることができる「Amazon ほしいものリスト」
▼情報発信ツール「LINE 公式アカウント」
▼SNS「X (旧 Twitter)」、「Facebook」
▼事前申し込みやアンケートなどが作成できる「Google フォーム」
▼オンライン会議ツール「ZOOM」
▼オンラインで様々な広報物や SNS で活用できるバナーなどを作成できる「Canva」
などの使い方の解説資料がありますので、興味ある方はぜひご覧ください。

